

令和6年度 地域振興推進費事業実績一覧

佐久地域振興局

横断的な課題	施策の柱	No	事業名 (主な担当課・所)	実績額(円)	事業実績・成果
「晴れやかな 空の下、心晴 れやかに暮ら す」確かな生 活の基盤づく り	医療・介護・ 生活支援の更 なる充実と教 育の強化	1	健やか佐久プロジェク ト ～知ろう！食べよう！ 体を動かそう！みんな で健康づくり・フレイル 予防～ (佐久保健福祉事務 所、東信教育事務所)	672,572	1 成果指標・目標値 ※括弧()内は実績値 ・健康ボランティアを活用したフレイル予防ミニ講座の実施 10回以上、100人以上(24回 940人) ・キャンペーンによる普及啓発の場 10回以上(10回) ・健康づくりのための各種教室への講師派遣回数及び参加者数 7回以上、150人以上(8回 161名) ・体験講座参加者の満足度(5段階中) 4.3以上(4.57) 2 達成状況 達成 3 事業実績・成果 ・昨年度に本事業で作成したフレイル予防リーフレットを活用し、地域で活動する健康ボランティアの会合等にてフレイル予防ミニ講座を実施。中村崇先生(理学療法士・一般社団法人健康福祉広域支援協会)の協力を得て、健康ボランティアに限らず、地域住民に対しても健診の結果返却時や公民館での活動でもミニ講座を実施したことで、目標値を大きく上回った。キャンペーンでの活用も含め、作成したリーフレット5000部全てを配布し、地域住民に広く周知することができた。 ・普及啓発フォーラムは、フレイル予防と仲間づくりをテーマに地域で既に活動している健康ボランティアを対象に開催した。講演によるスキルアップ研修とグループディスカッションを通じて他団体との交流を深める内容とし、約100名の参加があり、活発な意見交換が行われ、地域全体でフレイル予防に取り組んでいく機運を高める機会となった。 ・東信教育事務所と佐久保健福祉事務所が連携して公民館活動や健康ボランティア育成講座などへ講師を派遣するなど、主体団体の多様なニーズに応じた講師派遣及び講座開催を行うことができた。また、ガイドを受けながら佐久市浅科地区の文化財をめぐるポールウォーキング講座は参加者から大変好評であった。併せて、各種教室等で運動用具の貸出についても周知することができ、運動用具の貸出を行っていることが地域で定着してきている。 ・高齢者が安心して食事が出来る環境を整えるために、長野県栄養士会佐久支部の協力のもと「栄養サマリー」の改定を行った。また、サマリーを活用する病院、福祉施設を対象に研修を実施し、サマリーの活用を周知することで、地域全体が共通認識を持って高齢者の食事をサポートできる体制を整えた。
		2	佐久平プレメディカル ケア産業創出事業 (商工観光課)	1,551,073	1 成果指標・目標値 ※括弧()内は実績値 ・個別プロジェクト事業化件数 2件(2件) ・医療現場等での開発製品の着手件数 2件(3件) 2 達成状況 達成 3 事業実績・成果 ・地域企業が有する技術を活用し、医療介護現場ニーズに対応した新たな製品開発3件の着手を開始した。また、今年度6点の開発製品で約2億6,000万円余りの売上実績があった。 ・SAKUメッセにおいて、これまでの開発製品6点を出展し、地域の小中学生や高校生、一般の方などに対し、当事業について紹介した。(来場者数約3,400名) ・国際福祉機器展に、開発製品5点を出展し、延べ26件の商談を行ったことで、新たな販路開拓の足掛かりを得ている。
	豊かな自然環 境の保全や、 地域の特性を 活かした脱炭 素	3	適応から振り返るゼロ カーボン推進事業 (環境・廃棄物対策 課)	112,125	1 成果指標・目標値 ※括弧()内は実績値 ・ゼロカーボンミーティングの参加者数 30人以上(52人) 2 達成状況 達成 3 事業実績・成果 【実績】 ・「SDGs」をテーマに、NPO法人長野県NPOセンターの岩井佑樹氏による講演のほか、「電気自動車」をテーマに、産業技術総合研究所主任研究員櫻井啓一郎氏による講演を実施。 ・電気自動車試乗体験会では、民間自動車メーカーの協力を得て、3台の試乗車の試乗体験とバッテリー利用等の体験会を実施した。 【成果】 ・岩井氏の講演により、地球温暖化が及ぼす影響について再認識するとともに、100年後の長野県のためにどのように行動していくかを参加者が意識するきっかけを作ることができた。 ・櫻井氏の講演により、参加者が電気自動車の有効性について、最新の情報をもとに把握するとともに、現時点での電気自動車の有効な活用方法について知識を深めることができた。 ・試乗体験会では、試乗希望者が電気自動車の運転特性や、非常時のバッテリーの活用方法を体験することで、電気自動車を身近に感じてもらうきっかけを作ることができた。

横断的な課題	施策の柱	No	事業名 (主な担当課・所)	実績額(円)	事業実績・成果
「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり	農林水産業、商工業の振興	4	佐久産農畜産物地消地産流通体制確立事業（佐久農業農村支援センター）	374,800	1 成果指標・目標値 ※括弧（ ）内は実績値 ・農産物見学会への参加者 30人(<u>7人</u>) ・直売所販売リストの作成、ひな型の配付・利用 5施設(<u>5施設</u>) ・直売所出荷者と宿泊施設における農畜産物供給マッチング 3件(<u>1件</u>) ・直売所研修会参加施設数 15施設(<u>5施設</u>) 2 達成状況 一部達成 3 事業実績・成果 ・宿泊施設関係者を対象とした地方卸売市場及び農産物直売所の見学会を開催した。参加者からは継続した開催を希望する声もあったが、佐久地域産農産物の流通量が増える時期と宿泊施設の繁忙期が重なってしまうため、検討が必要である。 ・宿泊施設、地方卸売市場、仲卸業者、農産物直売所運営者の懇談会を開催した。流通関係者からは既存ルートを利用した流通の検討や地域産農産物の情報を広く発信することについて意見が出された。宿泊施設では地域産農産物の利用に興味はあるものの、仕入れロットや保管場所等の課題があることが分かった。 ・農産物直売所販売農産物リストのひな型作成を業者に依頼し作成した。農産物直売所交流会で情報提供するとともに、ひな型の配付を行った。本リストは宿泊施設を含めた直売所利用者に対する情報提供に利用するほか、直売所出荷者に対する作付誘導にも利用できる。 - 今後、直売所においてどのように利用されているか確認を行い、優良事例を他の直売所に周知することで更なる活用を進める必要がある。 ・多角的な農産物販売を模索している直売所と地域産農産物の利用に興味のある宿泊施設間でのマッチングを行い、秋から取引が開始された。この事例は開始前に保管場所や配送方法等を両方で検討したことでスムーズな取引が可能となった。次シーズンも引き続き取引を行う予定のため、モデル的な取組として状況確認を行う。 - また、その他の施設のマッチング、情報提供も進めていく必要がある。 ・直売所交流会の開催前に職員ファシリテーター研修会を実施したところ、センター職員だけでなく地域振興局の他課職員も含め34人の出席があった。 - 直売所交流会は直売所だけでなく、市町村や女性農業委員等も出席し、直売所の誇りや課題、解決に向けたアイデア等について活発な意見交換が行われ、直売所同士のつながりを深めることができた。また、グラフィックレコードを利用することで、参加した直売所だけでなく欠席した直売所への情報提供も行うことができた。
		5	生食ブルーンの美味しさを佐久地域から発信！（佐久農業農村支援センター）	1,248,588	1 成果指標・目標値 ※括弧（ ）内は実績値 ・スタンプラリー達成者 50人(<u>79人</u>) ・アンケートにおけるイベント満足度調査 回答者の6割が「満足」回答(<u>91%※大満足・満足合計</u>) ・消費宣伝会におけるブルーンへの関心調査 回答者の5割が「ブルーンへの理解深まった」回答(<u>99%</u>) 2 達成状況 達成 3 事業実績・成果 ・令和6年9月28日（土）～令和6年10月14日（月）、「オータムキュート」を使ったスイーツスタンプラリーを開催。スタンプラリー達成者は79人、そのうち抽選で当選した50人に特典を送付。同イベントにおいて実施した参加者アンケートの結果から、佐久市以外にも小諸市、上田市、東御市など東信地域の参加者が多かったことから、地元消費の定着に貢献したと考えられる。また、「オータムキュート」を知っていたかという質問に対して、68%の参加者が「知っていた」と回答しているが、「今回初めて知った」と回答した参加者が28%に上るため、今後はこの28%を減少させることが課題。 ・生産者、直売所等が使用する、リーフレットを1,000部増刷した。増刷したリーフレットは、支援センターで毎年実施しているブルーンの消費宣伝会において、ブルーンに関するクイズとともに配布した。同時に、参加者に対してリーフレットを見てブルーンの理解が深まったかについてアンケートを実施したところ、99%の参加者から深まったと回答が得られた。引き続き佐久のブルーンをPRする媒体の一つとして活用していく。
		6	”お木変え”から始まる！ウッドチェンジゼロカーボン地域創出に向けた普及啓発事業（林務課）	291,105	1 成果指標・目標値 ※括弧（ ）内は実績値 ・森や木に触れる体験会の参加者数 50人(<u>300人</u>) ・林業体験・学習会の参加者数 20人(<u>23人</u>) 2 達成状況 達成 3 事業実績・成果 【体験会】 木製品の展示・即売会、木工体験(キノハナkinano、枝でクラフト)、フィンランドの伝統的な遊びを元にしたスポーツ「モルック」、カラマツ精油の抽出実演等、多彩な内容で体験会を実施。しあわ戦隊KOUMIマンのショーや、アルクマ、ミス日本みどりの大使ミニライブ等が会場を盛り上げ、約300名の来場者に木の良さを認識してもらい、ウッドチェンジを推進することができた。 【森林環境教育】 高校生以上の県民を対象に、森林・林業が自然環境や私たちの生活に与える影響について学習会を開催し、木造施設の見学を通じて、佐久地域の「林業」や「森林の多面的な活用方法」を知ってもらうと同時に、将来の就業の選択肢として認識してもらえた。

横断的な課題	施策の柱	No	事業名 (主な担当課・所)	実績額(円)	事業実績・成果
	新たな価値観・行動を捉えた広域観光の推進	7	東信州日本酒・ワインツーリズム事業 (商工観光課)	1,834,864	1 成果指標・目標値 ※括弧()内は実績値 ・ツアーの参加者 50名以上(60名) ・ブース来客者 400名以上(600名) ・意見交換会・視察ツアーの参加者 10名以上(26名) 2 達成状況 達成 3 事業実績・成果 ・しなの鉄道観光列車ろくもんを活用したツアーを開催し、長野県内外から来た参加者に秋の東信州(軽井沢～小諸～上田)の魅力を東信州の日本酒・ワイン・和御膳弁当や小諸市の懐古園散策とともに楽しみいただいた。これまで地域外の方にあまり知られていなかった酒類を提供したところ、大勢の方から購入場所や製造方法について質問が寄せられるなど、反響があった。 ・小諸蒸留所ウイスキーフェスティバル2025において、共催団体としてほんまち町屋館の特設会場で東信州の日本酒・ワインや特産品の試飲・試食・販売を通してその魅力を発信した。当日は長野県内外のほか、外国人観光客が来訪した。ピークタイムにはブース内が人で溢れるほど盛況であり、「帰ってから飲みたいから購入します」や「小諸市全体が盛り上がっていて嬉しいね」など好評の声が多く寄せられた。 ・ShinXia(大学生)に関わる学生と佐久地域の日本酒関係者とともに信州佐久酒蔵フィールドトリップを開催し、学生から日本酒を身近に感じてもらうための施策を提案してもらった。また提案の検討過程での酒蔵見学や有識者からの解説等を通じて、佐久地域の日本酒について周知することができた。
「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり	新たな価値観・行動を捉えた広域観光の推進	10	佐久っとサイクルプロジェクト事業 (商工観光課)	330,000	1 成果指標・目標値 ※括弧()内は実績値 ・メンテナンスが完了したラック数 11基(10基) ・情報発信(佐久っと通信ブログ)における閲覧数 100以上(128) 2 達成状況 一部達成 3 事業実績・成果 ・事業者にサイクルラック10基の木部表面研磨、塗装、ネジとボルト締め付け調整をしてもらい、利用者が安全かつ安心して使用できる状態にした。 ・サイクルラックのメンテナンスについて県ブログに掲載し、ラックの設置場所と積極的な利用について情報発信した。ブログの視聴は128回で、多くの方にサイクルラックについてPRできた。 ※メンテナンス対象だった「八千穂高原自然園」でのラックが雪の影響により回収できなかったため、1基減の10基に変更。
		11	佐久地域観光振興事業 (商工観光課)	75,502	1 成果指標・目標値 ※括弧()内は実績値 ・講演会への参加者数 50名以上(25名) ・実施後のアンケートにおける意見・提案数 25件以上(25件) 2 達成状況 一部達成 3 事業実績・成果 ・管内の行政、観光協会、事業者など計25名が参加。長野県観光機構を講師に現状の観光状況や持続可能な取組方法などの講演を行い、佐久地域における観光振興への意識醸成を図った。 ・また、業界を交えたグループで各視点での現状の課題や観光振興に向けた提案などを議論をし、異業種間での交流や状況共有を図る場を設けた。 ・実施後のアンケートでは「大変貴重な機会だった」「他の業界の生の声を聴けてよかった」「勉強になった」など、参加者の80%の方から「満足」「やや満足」の回答が得られた。
「教育が人を呼び込む」首都圏からの利便性と人を活かした地域づくり	移住・定住、関係人口の増加に向けた取組の推進	8	佐久地域の移住スタイル発信事業 (企画振興課)	1,319,759	1 成果指標・目標値 ※括弧()内は実績値 ・相談会参加者 40名以上(31組67名) ・移住個別相談会参加者のアンケート満足度 80%以上(93%) ・移住者交流会満足度 80%以上(100%) 2 達成状況 達成 3 事業実績・成果 【個別相談会】 ・令和5年度に引き続き首都圏で開催し、31組67名が参加。 ・佐久地域定住自立圏の構成市町村のうち、定住促進・交流推進施策分野の協定締結市町村と合同開催し、多くの市町村の情報を発信をするとともに、県教育委員会を含む5団体の特色ある学びを周知した。 【移住ガイドブック】 ・管内11市町村の特徴や、移住者の声、特色ある教育を展開する学校などを紹介したガイドブックを発行した。 ・移住相談会や銀座NAGANO等での配布や県HPへの掲載により、首都圏等から佐久地域への移住を検討している方に移住地の検討材料として届けることができた。 【移住者交流会】 佐久地域の移住者に市町村の枠を超えた交流の機会を提供することにより、新たなつながりを創出し、定住への支援とした。

横断的な課題	施策の柱	No	事業名 (主な担当課・所)	実績額(円)	事業実績・成果
地域計画の推進のために必要な事業		9	佐久管内県機関及び市町村等の情報発信事業 (総務管理課)	576,400	1 成果指標・目標値 ※括弧()内は実績値 ・情報発信を実施する県・市町村等関係機関(所属)数 8機関(13機関) 2 達成状況 達成 3 事業実績・成果 【fmラジオコーナー放送】 ・fmさくだいらにおいて、毎月1回第2火曜日17時30分から約8分間の番組「長野県情報宅配便佐久っとうラジオ」を合計12回放送した。佐久管内の県機関や市町村等に出演してもらい、県が取り組む各種啓発月間の広報や、事業の紹介、イベントの広報等、県民に伝えたいタイムリーな情報を発信した。 ・出演者が固定化しないよう、これまでに出演したことのない機関(佐久技術専門学校、佐久市役所等)に出演を依頼することで放送内容を充実させ、目標を超える数の機関と連携することができた。 【地元紙メディア媒体への広告掲載】 県主催の一般参加者向けの2件のイベントについて広告を掲載し、集客の一助となった。 【SNSへの広告掲載】 県主催の一般参加者向けの2件のイベントについて広告を掲載した。内容に合った適切なターゲット設定をすることができたため、クリック単価を安く抑え、多くの人に広告を表示させることができた。参加者へのアンケート結果によると、SNS広告を見ての参加者も確認できており、集客の一助となった。

執行区分	令和6年度	令和5年度
当初予算額(A)	8,781,000	9,135,000
実績額計(B)	8,386,788	8,427,908
執行残額(A－B)	394,212	707,092
執行率(B/A*100)	95.5%	92.3%

評価区分	令和6年度	令和5年度
達成	8事業	9事業
一部達成	3事業	1事業
未達成	0事業	1事業
合計	11事業	11事業